

パン用小麦の品質向上のための施肥体系の確立

1 背景・目的

県内においてもパン用小麦の需要が高まっており、品質(タンパク含有率)の向上が求められている。そこで、パン用途の「ゆきちから」における品質向上に向けた施肥体系について検討する。

2 技術のポイント

- (1) 開発した施肥体系は、幼穂形成期の追肥量を 2kg/10a に減らし、止葉展開期から開花期を 6kg/10a に増肥するものである(表)。
- (2) 止葉展開期から開花期に増肥することでタンパク含有率の向上が可能である(図 1)。
- (3) 収量は慣行施肥並を確保することができる(図 2)。

表 施肥体系

試験区	窒素施肥量(kg/10a)						総窒素施肥量 (kg/10a)
	基肥 (10月中旬)	年内 (11月中旬)	幼穂形成期 (2月下旬~3月上旬)	節間伸長期 (3月中旬~下旬)	止葉展開期 (4月上旬~中旬)	開花期 (4月下旬~5月上旬)	
止葉展開期追肥	4	2	2	2	6	0	16
開花期追肥	4	2	2	2	0	6	16
慣行施肥	4	2	4	2	4	0	16

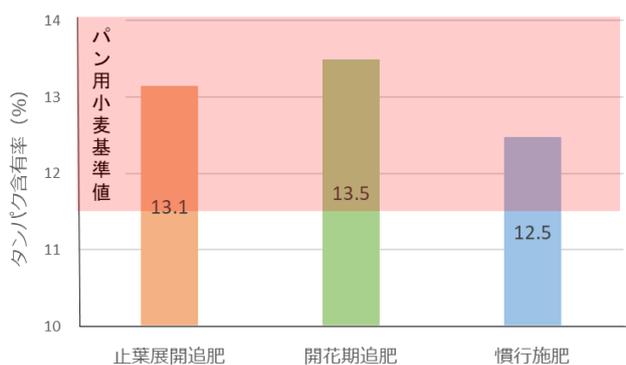


図 1 タンパク含有率



図 2 収量

3 成果の活用と留意点

今回の成果を踏まえてパン用小麦一発肥料の開発を検討する。

問合せ：作物研究部 作物チーム TEL 076-257-6911
 担当者：山上 友誠・有手 友嗣・松崎 兼秀